

自己評価の基準
A...計画以上
B...計画にほぼ準拠
C...計画以下

資料2-4

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価委員会の評価, コメント, 評価.

総合評価
「将来の社会貢献のために」というキーワードを生徒、教員が共有していることに北野高校の実践の意味、社会的ミッションの意味がある。WVL事業についてはコロナ禍の中、予定していた事業は満足にできなかったが、オンラインで国際会議を実施するなど一定の成果を上げている。進学実績も昨年度に引き続き素晴らしいが、高いレベルの教育力を維持していくための「知の継承」が課題。また、英語外部検定試験については、生徒により高みをめざすよう促す仕組み作りが必要である。大阪府のみならず日本を代表する公立高校として、さらなる躍進に努められたい。

自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下
評価会議の基準
AAA・・・極めて高く評価されている
AA・・・高い結果を挙げている
A・・・結果を挙げている
B・・・計画通りであるが、課題がある
C・・・計画の達成ができていない

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価会議の評価コメント, 評価

総合評価 「グローバル社会を舞台に活躍する人材の育成：しなやかで心折れない精神力」をめざしている。課題研究の進め方・内容と進路指導のシステムがバランスよくできていることは評価できる。今後、令和2年度から継続して指定されたSSHの開発テーマにもある「地域に還元する取組み」に期待する。また、日常の業務を通して教員を育成する仕組みができているとともに、指導教諭を中心に「生徒の自立を促す授業づくりの会」を開催し、教員の授業力向上を進めている点は評価できる。豊中高校の改革は他の高校にとってもモデルとなるので、これらの成果の普及に力を入れていただきたい。 A



自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会 評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	----------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	I. 確かな学力の向上を図る <small>小項目（はくくみたいか） ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他</small>	①言語活用能力	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	8回 / 講座	6回 / 講座	7回 / 講座	目標を達成した	B	【アンケートによる生徒の評価】ディベートをすることで英語の表現力が高まった	85%	80%	80%	目標を達成した	B	継続	A	
		②言語活用能力・ICT活用能力	継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	A: 「保健」の授業でのプレゼンテーション B: 「1年行事委員会活動」での生徒間のプレゼンテーション	A: 1回 / 生徒 B: 10回	A: 1回 / 生徒 B: 10回	A: 1回 / 生徒 B: 4回	A: 1年「保健」の授業でプレゼンテーションを実施。2年「保健」においては、健康の分野でディベートを実施し、その中で最低1回は発言する機会を持たせた。 B: 感染予防の観点から回数を減らし実施した。	【アンケートによる生徒の評価】A: 授業を通じて自らの成長を実感できた B: 1年行事委員会に参加して充実した活動ができた	B	A: 85% B: 未実施	90%	A: 96% B: 97%	A: 目標を大きく上回った B: 目標を大きく上回った	A	継続		
		③基礎学力の向上	継続	進路目標達成のための基礎的教養や知識を高める図書の実施	図書館の開館日数の確保	204日	210日	183日	学校再開時より可能な限り図書館を開館した。	生徒に対する図書館蔵書の貸出冊数及び生徒一人あたりの図書購入冊数	B	貸出冊数 3024冊 購入一人年間2.1冊	貸出冊数 3000冊 購入一人年間2冊	貸出冊数 2109冊 購入一人年間2.3冊	貸出冊数が臨時休業等の影響で目標を達成できなかったが、生徒一人あたりの図書購入冊数は目標を達成した	B	再編		
		④共感性・違いを認め共に生きる力	継続	生徒の人権委員を中心とした多文化共生・多様性受容の取組み	実施回数	8回/3年 14回/2年 8回/1年	年5回/ 12回/2年	1年、3年は臨時休業のため生徒主体による人権行事は中止。 2年: 「環境問題と人権」	【アンケートによる生徒の評価】様々な取組みを通して、深く自国や自分自身を見つめ直すことができた	B	3年: 98% 2年: 97% 1年: 97%	90%	2年: 87%	1年・3年は生徒主体による人権行事は中止 2年は目標に近い値を達成	B	継続			
		⑤課題発見力・紛争を解決する力	継続	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	開催回数	49回	50回	77回	生徒議会: 24回 各種委員会: 53回	【アンケートによる生徒の評価】「文化祭」「体育祭」等の学校行事の取組は充実したものである	A	92%	90%	文化祭 91%	「体育祭」は中止 「文化祭」は目標を達成	B	継続		
		⑥健康・体力をはくくむ	継続	リーダー研修Ⅲ（クラブサポート事業）の実施	実施回数	11回	10回	8回	部活動再開時より可能な限り実施した。 8回実施 参加生徒のべ92名	【アンケートによる生徒の評価】研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	B	100%	90%	98%	目標を大きく上回った	A	継続		
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくくむ <small>小項目（はくくみたいか） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他</small>	⑦高い志・規範意識をはくくむ	継続	リーダー研修Ⅰ（リーダーとしての資質の獲得）の実施	実施回数	12回	10回	11回	11回実施 参加生徒のべ614名	【アンケートによる生徒の評価】研修内容を今後のクラブ活動において有効活用できる	B	97%	90%	98%	目標を大きく上回った	A	継続	AA	
		⑧高い志・共生活力をはくくむ	継続	ボランティア活動の推進	参加した地域活動等の種類	50	50	13	制約がある中で、工夫して実施可能なものについては、積極的に参加し、取り組んでいる。	B	生徒ののべ参加人数	1058名	1040名	174名	制約がある中で、工夫して実施可能なものについては、積極的に参加し、取り組んでいる。	B	継続		
		⑨学びの意味と自らの将来について深く考える	継続	学問発見講座・卒業生講座	実施講座数・実施回数	14講座 / 年1回	20講座 / 年2回	22講座 / 年1回	学問発見講座は中止 卒業生講座22講座（中止となった学問発見講座の代替も兼ねて講座数を設定した）	A	学問発見講座 93%	90%	97%	学問発見講座は中止 卒業生講座97%	A	継続			
	III. 高い志をはくくみ、進路実現をめざす <small>小項目（はくくみたいか） ・規範意識 ・高い志 ・その他</small>	⑩最先端の学びの研究	継続	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取組み及び教科・科目の研究会を通じて専門知識を深める取組み	A: 大学等と連携した取組みの回数 B: 教科・科目の研究会等への参加回数	A: 17回 B: 54回	A: 20回 B: 50回	A: 58回 B: 24回	Aは目標を大きく上回った Bは前期に研究会等が中止になったため目標を達成できなかった	B	【アンケートによる生徒の評価】この先生の授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まった	83%	85%	89%	目標を達成した	B	継続	A	
		⑪授業力向上	継続	パディシステムを用いた互見授業の実施	教員1人あたり年2回以上の実施	2.5回/人	2.0回/人	2.3回/人	目標を達成した	B	【アンケートによる生徒の評価】信頼できる先生なので来年もこの先生の授業を受けたい（後輩に受けさせたい）	89%	89%	93%	目標を達成した	B	継続		
		⑫授業力向上	継続	研究授業の実施	実施回数	21回	20回	1回 (34回)	Google Classroomを利用した研究授業見聞34回。 対面の研究授業1回。	A	研究授業の教員のべ参加人数	98名	80名	7名 (214名)	Google Classroomを利用した研究授業見聞34回。対面の研究授業 7名。	A	継続		
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査							学力調査の結果		評価審議会資料3に明記						AAA		
		⑭大学入学共通テストへの参加							大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合	87%	85%	92%	目標を大きく上回った	A	継続				
		⑮大学入学共通テストの結果							大学入学共通テストの5教科7科目の受験者の得点率	76%	74%	78%	目標を上回った	B	継続				
	VI. 課題研究活動	⑯課題研究活動							多様なテーマを扱う生徒の課題研究	23講座	22講座	24講座	目標を達成した	B	継続	B			
		⑰コンクール・コンテスト等の成果							全国青少年読書感想文コンクール・全英連 全国 essay contest等の入賞者数	5名	5名	3名	第59回全国高等学校生徒英作文コンテスト: 入賞1名 第7回良withレシ甲子園: 優秀賞1名 金沢大学第三回超然文学賞: 優秀賞1名	B	継続				
	VII. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験							①CEFR B2レベル以上保有者数（全学年） ②実用英語技能検定2級以上保有者数（全学年）	① - ② 267名	① 15名 ② 300名	①25名 ②379名	①目標を大きく上回った ②目標を大きく上回った	A	継続	AA			
VIII. 進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学							スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	151名	150名	173名	目標を大きく上回った	A	継続	AAA				
	⑳進学実績							東大、京大、阪大、神大の合格者数	130名	120名	150名	目標を大きく上回った	A	継続					
	㉑国立大学への進学							国立大学現役進学者数	161名	-	191名	-	-	-		-			
	㉒海外大学への進学							海外大学進学者数（1浪含む）	0名	-	0名	-	-	-		-			

総合評価	「高い志」を涵養するための卒業生講座では様々な分野から幅広く大学教授が講演に来ておられ、これまでの自主自律の精神の賜物であるとともに、生徒にとってロールモデルとなっており、大変評価できる。生徒が活躍する様々な行事がコロナの影響で中止となったが、今後はコロナ禍で生徒の主体性をいかに育むか工夫が求められる。また、パディシステムを活用した互見授業により授業力の向上を図っている点も評価できる。今後は地域の拠点校として、教員研修を他校とともに実施したり、生徒の自主性を育む取組を発信するなどが求められる。	A
------	---	---

自己評価の基準	A・・・計画以上 B・・・おおむね計画通り C・・・計画以下	評価審議会の評価の基準	AAA・・・きわめて高い成果をあげている AA・・・高い成果をあげている A・・・成果をあげている B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C・・・取組の見直しが必要である
---------	--------------------------------------	-------------	---

資料2-9
-------

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																		コメント	評価	
学校独自の取組	I. 確かな学力の向上を図る <small>小項目（はぐくみたい力） ・言語活用 ・ICT活用 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他</small>	①言語活用・ICT活用	継続	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表人数	770人	770人	720	まこと・のぞみ 2/1 LS発表会 2/6 S発表会	B	①プレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合 ②外部指導助言者等による肯定的評価割合	①78% ②90%	①80% ②90%	①67%	①本校3年生実施SST調査表現力項目平均値 ②コロナ感染症のため実施せず	B	継続	課題研究にコース制を取り入れていることが特徴的。コロナ禍で年度末の校内発表会ができず指導助言をもらう機会がなかったのは残念である。次年度以降、課題研究の成果と課題について、確認するとともに、常に改善していったきたい。	AA	
		②基礎学力の向上	継続	勉強合宿・補習・講習の実施	参加者数	1077人	1000人	1074	人数は1080-長欠者(6) 1・2年の講習は土曜の学習活動 3年講習は加えて平日午後の講習	B	5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	34%	40%	27%	大学入学共通テスト受験者のうち720点以上の生徒の割合	B	継続			
		③英語運用能力	充実	ネイティブによる4技能向上に向けた授業実践	参加者数	1080人	1080人	1074	人数は1080-長欠者(6) 全学年でのネイティブ教員によるスピーキング指導の実施	B	大学入学共通テスト英語平均点	136%	140%	135%	大学入学共通テスト英語筆記の全国平均（河合塾発表値58.8点）に対する大手前の平均79.6点の比	B	継続			
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ <small>小項目（はぐくみたい力） ・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他</small>	④違いを認め共に生きる力・紛争を解決する力	継続	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施	・学校訪問受入者数 ・海外スタディツアー参加者数	受入0 派遣192 交流0	受入20 派遣120 交流50	54人	台湾オンライン交流新規実施(15) オンライン研修参加者(3月実施) (フィリピン20、NZ・カナダ8、USA11)	A	異文化について理解を深めることができた回答した参加生徒の割合	93.0%	93%	-	該当の海外研修は実施できず	-	再編	海外研修はできなかったが、オンラインを活用した海外交流等を実施できたことは評価できる。また、クラブへの延べ加入者は増加しており、生徒同士のコミュニケーションの場の活性化に役立っている。	A	
		⑤共感性・協調性	充実	①コーラス大会の実施 ②家庭科保育所実習の実施	参加者数	①1080人 ②360人	①1080人 ②360人	①1074人	体育祭・文化祭等の学校行事の実施により補充	B	この学校で良かったと回答した生徒の割合	89.5%	90%	92%	学校教育自己診断「学校生活に満足している」と答えた割合	A	継続			
		⑥健康・体力をはぐくむ	継続	クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活性化	①新入生オリエンテーションや部活発表会の実施 ②水泳訓練の実施 ③マラソン大会の実施	①年間2回 ②360名 ③720名	①年間2回 ②360名 ③720名	①年2回 ②未実施 ③実施予定	①年2回（1回はオンラインで実施） ②水泳訓練は中止 ③実施予定720名	B	クラブ加入率	90.0%	94%	90%	のべ加入者 1059⇒1089人へ増加	B	継続			
	III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす <small>小項目（はぐくみたい力） ・規範意識 ・高い志 ・その他</small>	⑦社会貢献意識を高める	継続	ボランティア活動の推進	ボランティア活動に参加する人数	280	300	30	自治会主催大阪城公園清掃 例年のその他のボランティアはコロナにより実施されず	B	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	71%	75%	85%		A	継続	遅刻者については、目標値にわずかに到達しなかったものの、昨年度から大幅に減少したことは評価できる。ただ、GLHSとして、単に数だけでなく、何がよくないのかを考えさせることも規範意識の醸成に必要と考え。またOB等による講演会についても、コロナ禍で制約が多い中、前年度実績を上回ったことは評価できる。目標値を上回るよう新たな取組みにもチャレンジしていただきたい。	A	
		⑧規範意識	充実	挨拶の励行 時間を守るための取り組み	全教員の輪番による登校指導	毎日	毎日	毎日	全教員による5分前指導の実施	A	1年あたりの総遅刻者数	2663人	2000人	2052人		A	継続			
		⑨高い志をはぐくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	80回	90回	82回	集中セミナー 79コマ 課題研究講演 1コマ 進路講演会 1コマ 阪大研修 1日	B	目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	88%	90%	85%	スーパーサイエンス・グローバルリーダーマインドセットテスト #28社会貢献意識の項目より	B	継続			
	IV. 教員の指導力向上をめざす <small>小項目（はぐくみたい力） ・授業力向上 ・教材開発 ・その他</small>	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	①研修回数 ②研修参加者数	①15回 ②70人	①15回 ②70人	①9回 ②200人	模試スタサポ反省会8回×10人 進路講演会（河合塾）1回×70名 共通テスト（ベネッセ）1回×50人 （職員進路研修、模試反省会）	B	本校の進路指導は信頼できると回答した保護者の割合	88.1%	87%	86.7%	学校教育自己診断「学校は進路に関する情報を積極的に提供している」と答えた割合 前年度数値87.8%を修正	B	継続	研究授業の回数が大幅に増加していることは評価できる。授業アンケート結果は高い評価を維持できており、継続的に授業研究を組織的かつ継続的に実施してもらいたい。	A	
		⑪授業指導力向上	充実	研究授業、授業参観等の実施 （授業相互見学の実施）	①研究授業の回数 ②公開授業の回数	①69回 ②216回	①70回 ②220回	①98回 ②未実施	新任研修 4回 授業相互見学 66回 教員自主研修での参観（新規）28回	A	授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「授業を受けて知識や技能が身についたと感じている」二項目の全教員の平均値	88.3%	90%	90%	後期授業アンケート集計	B	継続			
		⑫課題研究指導力の向上	継続	オール文理による全生徒への課題研究の指導の充実	①担当者会議の実施 ②全生徒の二年の発表会の実施	①20回 ②計画通り実施	①20回 ②計画通り実施	①20回 ②実施予定	S探会議、LS会議を20回開催	B	先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っていると回答した生徒の割合	85.1%	85%	85%	後期授業アンケート質問5「先生は教科書の他、役に立つ教材やICT機器などを効果的に使っている」の全教員の平均値	B	継続			
共通の取組	V. 総合的な学力の測定	⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果				評価審議会資料3に明記			5教科7科目受験者の割合は前年度実績を上回ったが、目標値に届かなかった。得点率8割以上の受験者の割合は、目標値及び前年度実績を下回った。原因を分析し、改善に役立ててもらいたい。	AA	
		⑭大学入学共通テストへの参加										大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	86.8%	90%	88%	317/359	B			充実
		⑮大学入学共通テストの結果										5教科7科目受験者における得点率8割以上の者の割合	34%	35%	27%	センターテスト受験者のうち720点以上の生徒の割合	B			充実
	VI. 課題研究活動	⑯課題研究活動										全国規模での大会の発表者数	44人	35人	20人	マスタスタ16名 SSH全国発表4人	B	継続	コロナによる影響もあるが、昨年度から全国規模での大会の発表者数、コンクール・コンテスト等の入賞者数が大きく減少した要因について分析されたい。課題研究をコース制にして系統的に実施している成果を、積極的にコンテスト等で発揮していただきたい。	B
		⑰コンクール・コンテスト等の成果										全国規模のコンクール・コンテスト等の入賞者数	①府レベル18名 全国レベル3名	①府レベル20名 全国レベル5名	①1名	①学生科学賞1名	C	継続		
	VII. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験										GTECSスコア690点（CEFR A2相当）以上 100%取得の維持	100%	100%	100%		A	継続	実績を維持している点は評価できる。今後、目標値の設定を見直し、より高レベルな資格等にもチャレンジを促す仕掛けを検討していただきたい。	AA
VIII. 進学実績	⑲スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学										スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	133人	135人	121人		B	継続	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は目標値を下回ったものの、進路希望達成率、国公立大学現役進学者数については、目標値及び前年度実績を上回っており、評価できる。この要因を分析し、さらなる飛躍を期待する。	AAA	
	⑳進学実績										進路希望達成率（第一志望への合格率）	41%	43%	47%	164+附3/359人	A	継続			
	㉑国公立大学への進学										国公立大学現役進学者数	153人	155人	164人		A	継続			
	㉒海外大学への進学										海外大学進学者数（1浪含む）	1人	2人	0人		B	継続			

総合評価	全クラス文理学科になったことに伴い実施した課題研究の2コース制は一定の成果が見られ評価できる。今後さらなるプログラム充実のため、適宜改善していただきたい。教員の研修を重視し、教科を超えた授業見学も増えていることも評価できる。また、コロナの影響で他校が行事をあきらめる中、様々な工夫をすることで行事を行ったが、生徒の満足度も高く受験や日々の学習へのモチベーションアップにつながったと考えられ評価できる。一方、コンクール・コンテスト等への出場数が大幅に減少している原因を分析し、改善願いたい。	A
------	--	---



自己評価の基準 A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下
評価審議会 評価の基準 AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である

資料2-5

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価 (コメント, 評価)

Summary row with columns: 総合評価, 母校愛が強く、地域にも愛され地域に根差している。廊下のホワイトボードに何げなく数学の問題が出題されていたり、過去の課題研究の報告書が自由に閲覧できるような仕掛けを行うなど、学びの充実のための細やかな工夫がなされている点は評価できる。将来構想委員会をはじめ、校長による参加型の組織づくりが「畷高」をもっと良くしたいという教員の思いを結集させるうえでどう作用するか注目したい。
AA

自己評価の基準
A・・・高以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・高以下

評価の基準
AAA・・・きわめて高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・成果をあげている
B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C・・・数回の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価 (コメント, 評価)

Summary row for '総合評価' (Overall Evaluation) with a large text block and a grade 'A'.



自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下
評価審議会
AAA・・・きわめて高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・成果をあげている
B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C・・・取組の見直しが必要である

資料2-2

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価. Rows include categories like '学校独自の取組' and '共通の取組'.

Summary row for '総合評価' (Overall Evaluation) with a large text block and a final 'AAA' rating.

自己評価の基準
AAA ... 非常に高い成果をあげている
AA ... 高い成果をあげている
A ... 成果をあげている
B ... 取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C ... 取組の取組が必要である

Main evaluation table with columns: 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価. Rows include: I. 種かな学力の向上を図る, II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を大きくむ, III. 高い志を大きく、進路実現をめざす, IV. 教員の指導力向上をめざす, V. 総合的な学力の測定, VI. 課題研究活動, VII. 英語運用能力, VIII. 進学実績.

総合評価
コロナにより様々な制限がある中、校内留学を実施するなど、生徒の心に灯を付ける取組みがされている点は評価できる。また、受験勉強型から課題解決型へと教員の意識が変わってきていることや、教員の授業アンケートの数値が高くなってきていることは、授業力向上の取組みが実を結びつつあるあらわれであり評価できる。令和2年度からSSHに継続指定されたが、開発テーマである課題研究を中心としたSTEAM教育に期待するとともに、生徒がコンテストなどへ挑戦することを後押しする仕組み作りにも期待する。
A



自己評価の基準 A...計画以上 B...おおむね計画通り C...計画以下
評価審議会の評価の基準 AAA...きわめて高い成果をあげている AA...高い成果をあげている A...成果をあげている B...取り組んでいるが工夫改善の余地がある C...取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度取組方針, 評価審議会の評価, コメント, 評価. Rows include: I. 確かな学力の向上を図る, II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を, III. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす, IV. 教員の指導力向上をめざす, V. 総合的な学力の測定, VI. 課題研究活動, VII. 英語運用能力, VIII. 進学実績.

Summary evaluation table with columns: 総合評価, 大学教授から先進的な取組みを聞き、卒業生から高校生活についての講話を聞く「三丘セミナー」や、SSHでのTAとの関わりを通して、将来を考える機会を数多く与えていることは評価できるとともに、卒業生のコミュニティが学校を中心に広がっていることも評価できる。オンラインの取組みにより結集した教員の力を、今後の授業力向上につなげていただきたい。また、生徒をいかに励まし、チャレンジを後押しするかといった点は今後の課題である。 総合評価 AA



自己評価の基準
A・・・計画以上
B・・・おおむね計画通り
C・・・計画以下
評価審議会
評価の基準
AAA・・・きわめて高い成果をあげている
AA・・・高い成果をあげている
A・・・成果をあげている
B・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C・・・取組の見直しが必要である

Main evaluation table with columns: 事業目的, 大項目, 小項目, 今年度の取組方針, 取組, 取組指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 成果指標, 前年度実績, 目標値, 実績, 実績の詳細, 自己評価, 次年度の取組方針, 評価審議会の評価コメント, 評価

総合評価
朝の読書活動は読解力向上や幅広い知識の獲得につながり評価できる。また、岸高手帳を携帯させセルフ・マネジメントを意識させる取組みは自主性を高めるうえで有効であり、評価できる。スーパークラスが設置され初めての卒業生がでるが、検証を行い、次に生かしていただきたい。生徒の自己実現のため、自習環境の整備など実施されているが、モチベーションを高く保たせたり、卓越した生徒を育成するさらなる仕掛けを期待する。
A